

令和7年度第2回広島県道徳教育研究協議会
実践報告及び協議「日常生活に生かされる道徳教育」
第2分科会 「道徳教育の要となる道徳科の授業改善」

日常生活に生かされる道徳性を養う 道徳科の授業の工夫



小方中学校区 大竹市立小方小学校 道徳教育推進リーダー 西 涼子

研究主題

日常生活に生かされる道徳教育の指導の在り方
～道徳科学習プログラムの作成を通して～



小方学園
施設一体型
・小方小学校
・小方中学校

研究の目的

目指す児童生徒像

じっくり考え、はっきり説明できる児童生徒
我慢強さ、思いやりの心、協調性を身に付けた児童生徒

道徳科学習プログラム



9年間を見通した
連続性のある指導

発達段階に応じた道徳的価値の理解

日常生活に生かされる
道徳性

日常生活に生かされる道徳性を養う 道徳科の授業の工夫

- 1 発問の工夫
- 2 道徳科学習プログラムの活用
- 3 全教職員による組織的な取組に向けた工夫
「成果と今後に向けて」

日常生活に生かされる道徳性を養う 道徳科の授業の工夫

1 発問の工夫

2 道徳科学習プログラムの活用

3 全教職員による組織的な取組に向けた工夫

「成果と今後に向けて」

1 発問の工夫（自己を見つめ、日常生活と結びつけて考えを深める）

(1) 補助発問・切り返し発問の精選

【中心発問】

山本さんはどんな思いでジャーナリストの仕事が続けたか。

【生徒の発言】

現地の正しい情報を世界に伝えることで、平和な世界の実現につなげたい。



中学校第2学年 A 真理の探究、創造
「戦争を取材する」 主題：真実を追い求める

【切り返し発問】

命の危険もあるのに、戦場に行くのはなぜ？

- ・複数の道徳的価値の対立
(生命尊重⇔真理の探究(よりよい社会の実現等))
→道徳的価値を実現する難しさ、人間の弱さに目を向ける。

【補助発問】

- そうするのはなぜ？(どんな考え?)
- その考えや思いを実現する具体的な行動は？

- ・行動の背景にある考えや思いを考える。
- ・考えや思いの具体となる行動を考える。
- 日常生活と結びつけて考えを深める。

1 発問の工夫（自己を見つめ、日常生活と結びつけて考えを深める）

(2) めあてについて考える発問の設定

授業の流れ(例)

【導入】

- ・めあてについて、課題意識を持つ。

【展開】

- ・教材を用いて考える(話し合う)。
- ・教材を用いて考えたことを生かして、めあてについて考える(導入と比較)。

【終末】

- ・学習や自分の生き方を振り返る。(日常生活と結びつける)
- (よりよい生き方をしようとする意欲を高める)

教材を用いて考えたことを生かして、めあてについて考える

- 多面的・多角的な視点から考えを練り上げさせる。
- ものの見方、考え方、感じ方の変容等を自覚させる。

めあてについて、日常生活における児童生徒の姿を紹介

- 自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせて考えさせる(実感を伴った理解)。

【めあて】

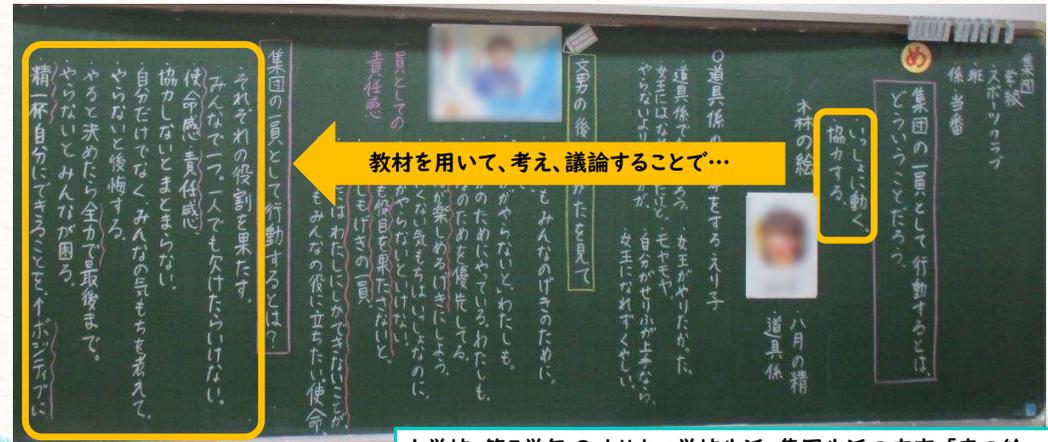
集団の一員として行動するってどういうこと？



小学校 第5学年 C よりよい学校生活、集団生活の充実「森の絵」

1 発問の工夫（自己を見つめ、日常生活と結びつけて考えを深める）

(2) めあてについて考える発問の設定



教材を用いて、考え、議論することで...

小学校 第5学年 C よりよい学校生活、集団生活の充実「森の絵」

日常生活に生かされる道徳性を養う 道徳科の授業の工夫

1 発問の工夫

2 道徳科学習プログラムの活用

3 全教職員による組織的な取組に向けた工夫

「成果と今後に向けて」

3 全教職員による組織的な取組に向けた工夫

(1) 研究授業を通した学び合い(指導力向上)



9年間を見通した連続した指導の充実に向けて

- 小学校、中学校が混ざったグループでの協議
 - 受け持っている児童生徒の発達段階との比較
 - 児童生徒の学びの姿、ねらいに迫る手立てについて協議
- 授業づくりについて、多面的・多角的に考える。



【研究授業参観】

- ・授業分析シートの活用
 - ・担当児童生徒の発言や記述の見取り
- 教師の手立てを1人1人の学びとつなげて考える。
(日常生活とつなげて考えさせる手立て等)



3 全教職員による組織的な取組に向けた工夫

(2) 道徳掲示板の取組を通した学び合い(指導力向上)



児童生徒の道徳ノートや板書にを使った挿絵、発問等を活用

児童生徒を認め、励ます手立て

【毎月、学年担当が作成(各学年による代表授業の実施)】

- ・学年団全員での授業検討による学び合い
- ・授業日の周知(他学年も参観しての学び合い)



3 全教職員による組織的な取組に向けた工夫

(3) 日々の授業改善に向けた打合せ(PDCAサイクル)

【授業前の協議】

- ・空き時間や放課後の活用
(曜日・時間を決めて)
- ・ねらい・めあて・発問の検討

【授業後の振り返り】

- ・児童生徒の考えを深められる発問であったか
- ・ねらいを達成することができたか。

学級担任だけでなく学年団で



協議の様子

指導案をデータ化し共有

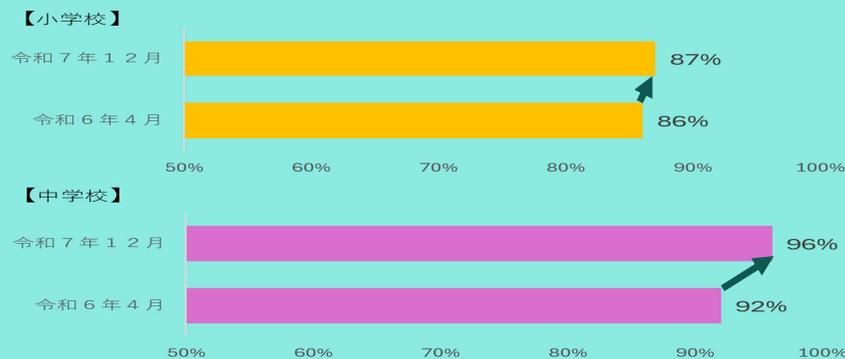
日常生活に生かされる道徳性を養う 道徳科の授業の工夫

- 1 発問の工夫
 - 2 道徳科学習プログラムの活用
 - 3 全教職員による組織的な取組に向けた工夫
- 「成果と今後に向けて」

成果と今後に向けて

(2) 意識調査の結果から

道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている



成果と今後に向けて

(2) 意識調査の結果から

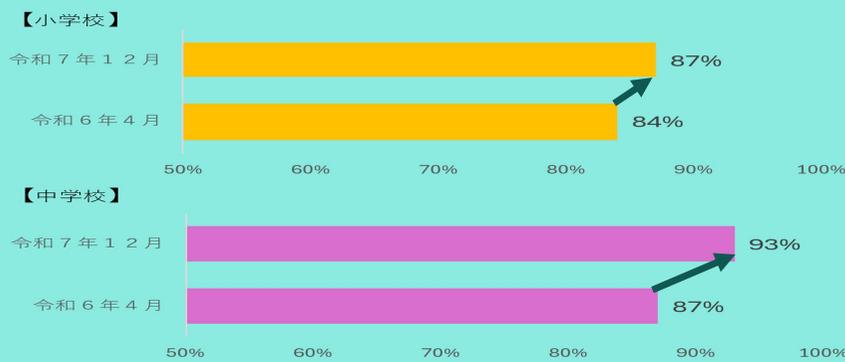
道徳科の授業では、自分の生き方について考えを深めている



成果と今後に向けて

(2) 意識調査の結果から

道徳科の授業で勉強したことを自分の生活にいかしている



(3) 成果のまとめ

- ・自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める児童生徒の増加
- ・道徳科の学習を日常生活で生かそうとする児童生徒の増加
- ・教師の指導力の向上
(発問の工夫、日常生活とのつながりを意識した授業)



○今後に向けて

児童生徒が自己の生き方について主体的に学ぶ授業を目指して



問題意識を持たせる導入の工夫(めあてを児童生徒と作る)

児童生徒が対話で聞き合うことを通して考えを深めていく反応やつながり言葉の工夫



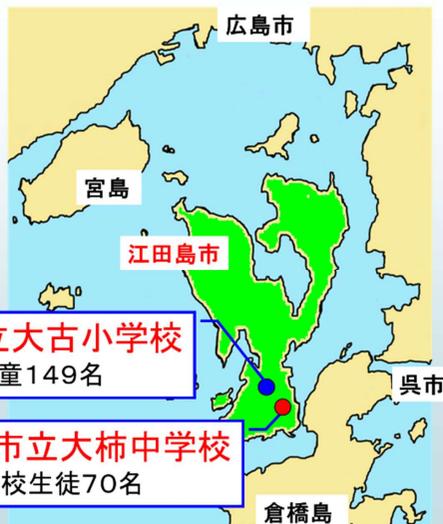
自己の生き方を追求する子どもたちを育む 道徳教育の創造 ～道徳教育プログラムの実践を通して～

江田島市立大柿中学校区
道徳教育推進リーダー教師
井口 誠文

実践報告

1. はじめに（研究主題設定の背景）
2. 研究内容
3. 成果と課題
4. 今後に向けて

1. はじめに（研究主題設定の背景）



1小1中学校
全学年1学級

江田島市立大古小学校
全校児童149名

江田島市立大柿中学校
全校生徒70名

1. はじめに（研究主題設定の背景）

○大柿中学校区の児童生徒について

良さ

- 素直で優しい児童生徒が多い。
- 学習や部活動に一生懸命に取り組むことができる。

課題

- 人間関係が変わらず固定化
- 自分の思いを伝えたり、課題解決したりする力が乏しい。
- 卒業後の新たな人間関係の構築や環境の変化への対応に課題

1. はじめに（研究主題設定の背景）

○研究主題設定

中学校区の課題を踏まえ道德教育を通じて、自己の生き方を追求し、その実現のための意欲と実践力の育成を目指す。

研究主題（令和6年度）

「自己の生き方を追求する道德教育の創造」
～小中9年間を見通したレジリエンスを育成する学習活動を通して～

研究主題（令和7年度）

「自己の生き方を追求する子どもたちを育む道德教育の創造」
～道德教育プログラムの実践を通して～

2. 研究内容

研究主題

自己の生き方を追求する子どもたちを育む
道德教育の創造
～道德教育プログラムの実践を通して～

- (1) 道德科の授業づくり
主体的に学び、協働する授業づくり
- (2) 道德教育プログラムの開発と実践

2. 研究内容 (1) 道德科の授業づくり

主体的に学び、協働する授業づくりの工夫

【主体的に学ぶ】：自己との関わりで考える

【協働する】：物事を多面的・多角的に考える

ア 考えを深める発問の工夫

イ 自己の生き方を追求するための振り返りの工夫

2. 研究内容 (1) 道德科の授業づくり

主体的に学び、協働する授業づくりの工夫

ア 考えを深める発問の工夫

「TMシート（Teaching Material）」の活用

（主題解釈・教材解釈シートを簡略化）

ア 考えを深める発問の工夫

○場面発問、中心発問の精選

・場面発問：教材把握、人間関係把握

・中心発問：児童生徒の多様な価値観を引き出す発問

2. 研究内容 (1) 道徳科の授業づくり

主体的に学び、協働する授業づくりの工夫
ア 考えを深める発問の工夫

ゴール	授業の最後に児童生徒からでてほしい言葉(道徳的価値)は？	
	自分の弱さを認め、強さに変えることがより大きな喜びや幸せにつながる	
めあて	「よりよく生きる」とはどういうことか考え、そして、そのために大切にしたいことは何か考えよう	
生徒の実態	この主題はなぜ、この時期の児童生徒に必要な	本字織の様子(できている、できていないところ)
	部活動を終え、本格的に受験へと向かう中で、辛さから逃げてしまうことや思い通りにいかず落ち込むこともある。そんな時に周りの支えに気づき、自分のために受験という最大の困難を乗り越えてほしいと考えたため。	目標を持ち、一生懸命取り組むことができるようになってきているが、強い意志を持ち続けることは難しく、諦めが甘い場面も多い。

教職員の声

- 授業のねらいとねらいに係る生徒の実態をはっきりさせることで、逆算して、発問を考えることができた。
- 道徳的価値の多面性に着目し、教師自身が整理しているからこそ、切り返すポイントが明確になった。

2. 研究内容 (1) 道徳科の授業づくり

主体的に学び、協働する授業づくりの工夫
イ 自己の生き方を追求するための振り返りの工夫

【道徳ログの活用】

- 視点①：一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させる。
- 視点②：道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。



2. 研究内容 (1) 道徳科の授業づくり

主体的に学び、協働する授業づくりの工夫
イ 自己の生き方を追求するための振り返りの工夫

5			かならず思はず	かならず思はず	文字数	必ず書く	文字数	書ける人は書く
道徳ログ (毎時間)		考えの変容	学び方 (気づき)	生き方について				
7	6/3	8ひとふみ十幸	【自然と共に生きる】【自然愛護】	7				
8	6/9	2011年3月11日の震災	【自然と共に生きる】【自然愛護】	8				
9	6/17	7アタデグループ	【社会の役に立つ】【勤労、公共の精神】	9				
10	6/24	10ふくらみグループ	【環境と共生】【自然愛護】	10				

成長や考えの変化を大きくりのまとまりの中で捉える。
→児童生徒：これまでの学習とつなげて、自己の生き方について考えを深める。
→教師：児童生徒理解、成長を捉え、指導に生かす。

2. 研究内容 (1) 道徳科の授業づくり

主体的に学び、協働する授業づくりの工夫
イ 自己の生き方を追求するための振り返りの工夫

自己の生き方について考えたこと(児童生徒の記述より抜粋)

小学生	中学生
何があっても諦めずにやり続けること。最後まで頑張る。	集団の中でやり遂げるには、みんなで力を合わせて心をつなげて取り組む。
自分の良さを伸ばすために努力することはいいけれど、周りから認められるような努力ができるようになりたい。	自分の成長のためには、時には嫌なことや困難なことを乗り越えないといけないけど、その中でも楽しみを見つねながらやろうと思った。
自分が納得する生き方や友達との向き合い方で後悔ないようにしたい。	学校生活の中でも取り入れたいものは積極的に言ってみようと思った。自分のオリジナルの誇りに思っアイディアを伝える。
いつも支えられているから今度は自分が支えていきたい。みんなで人をサポートできる人になりたい。	興味を持っていることを大切に自分の人生は自分で切り開く。
自分と違うから距離を置くのではなく、相手を知るために自分から話しかけられる人になりたい。	この先進路で悩んだら損得勘定で考えるのではなく、自分がしたいことは何かという考えを大切にしようと思う。興味のあることはとことん追求していく。

2. 研究内容 (1) 道徳科の授業づくり

主体的に学び、協働する授業づくりの工夫
 イ 自己の生き方を追求するための振り返りの工夫

道徳ログ (行事、学期ごと (中・長期))

中学校生活で考え続けたい「問い」を選んでください。

自分らしく生きるってどんな生き方だろう？			
月	中1	文字数	印象に残った行事や学習
最初		0	
7月		0	
11月		0	
2月		0	
最後		0	
月	中2	文字数	印象に残った行事や学習
最初		0	
7月		0	
11月		0	
2月		0	
最後		0	
月	中3	文字数	印象に残った行事や学習
最初	自分のやりたいことをしっかりやってたのしむこと だとおもいます。	32	あるレジ打ちの女性
7月	自分の好きなことに正直になって周りを気にせず やることだと思えます。	33	カラフルな世界で
11月	自分を大切にしたい好きなことに正直に生きること だと思えます。	29	文化祭
2月		0	
最後		0	

児童生徒がつくる考え続けたい問いの例

- [小1~小3]
 ・生きていく中で大切なことは何だろうか。
 [小4~中3]
 ・よりよく生きるってどんな生き方だろう。
 ・今を生きるってどんな生き方だろう。
 ・幸せな生き方ってどんな生き方だろう。
 ・自分らしく生きるってどんな生き方だろう。
 ・美しく生きるってどんな生き方だろう。
 ・喜びのある生き方ってどんな生き方だろう。

「自己成長」 「自己の充実」
 「主体的・意欲的に生き方を学ぶ姿」

2. 研究内容

研究主題

自己の生き方を追求する子どもたちを育む
 道徳教育の創造
 ~道徳教育プログラムの実践を通して~

- (1) 道徳科の授業づくり
 主体的に学び、協働する授業づくり
 (2) 道徳教育プログラムの開発と実践

2. 研究内容 (2) 道徳教育プログラムの開発と実践

○育てたい資質・能力の育成に向けて、レジリエンス教育
 テーマと内容項目との関連を整理し、道徳教育プログラムの
 開発と実践に取り組む。

レジリエンス教育テーマ	関連する主な内容項目 (◎重点内容項目)
逆境に負けない心	◎希望と勇気、努力(克己)と強い意志 ○よりよく生きる喜び ◎相互理解、寛容
自他を尊重する態度	○親切、思いやり ○友情、信頼 ◎相互理解、寛容 ○生命の尊さ
ポジティブ感情	○正直、誠実 ○感動、畏敬の念
自尊感情	○向上心、個性の伸長 ◎希望と勇気、努力(克己)と強い意志
自己効力感	○向上心、個性の伸長 ◎希望と勇気、努力(克己)と強い意志
ソーシャルサポート	○親切、思いやり ○感謝 ○友情、信頼 ○家族愛、家庭生活の充実 ○よりよい学校生活、集団生活の充実

2. 研究内容 (2) 道徳教育プログラムの開発と実践

道徳教育プログラム

レジリエンスチャレンジアップ

月	レジリエンス教育のテーマ	道徳科の内容項目	週	教科・領域	単元・教材 題材名	学校行事	教職員の 振り返り
4月	【4自尊感情】	【4-2希望と勇気、努力(克己)と強い意志】	1	学校行事		入学式・各種祭・新入生歓迎会	発表や振り返りに1年生への影響が非常に多く、これからの行動に期待したいと思う。
			2	国語科			
			3	学校行事	放課練習		
			4	道徳科	ほんとうのことだけど		
5月	【6ソーシャルサポート】	【6-5よりよい学校生活、集団生活の充実】	1	図画工作科	園と水で広がる世界	遠征 遠征訓練 運動会	遠征や運動会など、児童が主体になって学校をまとめる機会が多く、児童が子どもの変化になっている様だった。
			2	保健体育科	表現運動		
			3	学校行事	運動会		
			4	英語科・外国語科	We are from India.		

・学年団で、月末等に次月の計画(方針)、当月の振り返り(評価)を記載する。
 ※児童生徒が書いた道徳ログ(振り返り)を参考に成果や課題を分析する。

【教師】

レジリエンス教育のテーマ、内容項目を意識した意図的・計画的な指導。
 児童生徒の道徳ログ(振り返り)や行動をテーマを見る視点が変わる(声掛けの変容)。

2. 研究内容（2）道徳教育プログラムの開発と実践 道徳教育プログラム

教職員の道徳教育プログラムの毎月振り返り（教職員の記述より）		
教育テーマ	内容項目	教職員のふりかえり
自他を尊重する態度	友情、信頼	今月の目標に対し、教科領域等の計画があっていたと感じる。協力・団結する機会の多い7月だった。これらの経験を生かして、9月の野外活動に取り組んでいきたい。【7月】
自他を尊重する態度	相互理解、寛容	野外活動のテーマ「責任と積極的・友達を思いやる・仲間と協力・一生懸命」をみんなで考えた。この目標の達成に向けて、準備を進め、実際に実行することができた。【9月】
ソーシャルサポート	よりよい学校生活、集団生活の充実	体育祭に向けて、最高学年として下級生を引っ張ることができた。うまくいかないことに直面しても、仲間と協力することで、諦めずにやりきることができた。【5月】
自己効力感	希望と勇気、克己と強い意志	中学校生活最後の行事である文化祭に向けて、一生懸命練習を重ねた。特に合唱では、少人数という逆境の中でも諦めることなく、全員が最大限努力し、本番に臨むことができていた。【10月】

「意図的」

「計画的」

「教職員の声掛けの変容」

2. 研究内容（2）道徳教育プログラムの開発と実践 道徳科を要とした各教科等との関連

特別活動

保健体育科

リフレーミングとは…

物事を違った視点（フレーム）から捉えることで、新たな視点や価値を見付けること

道徳科

音楽科

2. 研究内容（2）道徳教育プログラムの開発と実践 道徳科を要としたゲストティーチャーの招聘

卒業生

TBSテレビ ひろおび
チーフディレクター
新庄 晃さん

世界ウェイクボード選手権
第3位
木原 江美さん

卒業生
ミスJAPAN 6位入賞
空先 有紀さん

道徳科

2. 研究内容（2）道徳教育プログラムの開発と実践 道徳科を要とした各行事との関連

文化祭・学習発表会

体育祭・運動会

アダプト活動

道徳科

3. 成果と課題

※令和7年度 児童生徒の変容（意識調査） 【肯定的評価の割合（%）】	小学生 5月	小学生 10月	中学生 5月	中学生 10月
将来の夢や目標に向かって努力している。 【努力、克己と強い意志】	89.1	91.8	70.5	73.8
道徳科の授業では、自分の（人間として の）生き方について考えを深めている。	88.4	91.6	85.2	93.4

4. 今後に向けて

自己の生き方を更に追求していく子どもたちを育むために

- 授業づくりの深化
（TMシートの改善、活用等）
- 振り返り（道徳ログ）の更なる工夫
- 道徳教育プログラムの充実
（レジリエンス、各教科等・学校行事との関連、
ゲストティーチャー、掲示物）

令和7年度第2回広島県道徳教育研究協議会
実践報告及び協議「日常生活に生かされる道徳教育」
第2分科会 「道徳教育の要となる道徳科の授業改善」

自己の生き方を追求する子どもたちを育む
道徳教育の創造
～道徳教育プログラムの実践を通して～

江田島市立大柿中学校区
道徳教育推進リーダー教師
井口 誠文

日常生活に生かされる道德教育 第2分科会 「道德教育の要となる道德科の授業改善」

海田町立海田中学校区
道德教育推進リーダー 菊池 圭祐

[目次]

- 01 海田町の目指す生徒像
海田町の道德について
- 02 道德科の授業改善
気持ちを可視する(ICT、ネームプレート等の活用)
考えを深めたり、広げたりできる発問の工夫
- 03 まとめ
成果と課題



01 海田町の目指す生徒像

海田町の道德について

01 海田町の目指す生徒像

【目指す子ども像】

自己肯定感を高め、自信をもって学習に取り組んだり、学校や地域での生活を送ったりすることができる

子ども同士のかかわり合いを大切にする

【海田中学校区 道德科の授業改善】

- ① 気持ちを可視する(ICT、ネームプレート等の活用)
- ② 考えを深めたり、広げたりできる発問の工夫

01 海田町の目指す生徒像

子ども同士のかかわり合いを大切にした授業づくり
に向けた児童生徒理解 (QUアンケートの実施)



適切な支援 授業での手立てへ → 意図的指名・グループ編成等

02

道徳科の授業改善

- ① 気持ちを可視する (ICT、ネームプレート等の活用)
- ② 考えを深めたり、広げたりできる発問の工夫

02 道徳科の授業改善

① 気持ちの可視化 (ネームプレートの活用)



登場人物の気持ちに共感できるか

なぜ共感できるか

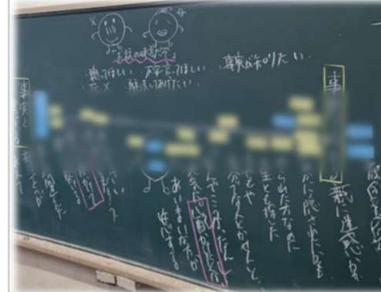
なぜ共感できないか

内容項目の大切さと難しさ
を子どもたちが語り合う

02 道徳科の授業改善

気持ちを可視する (ICT、ネームプレート等の活用)

① 気持ちの可視化 (ネームプレート等の活用)



自分だったら登場人物
の行動がとれるかどうか



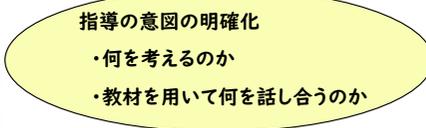
その行動をとったとき
どんな気持ちか



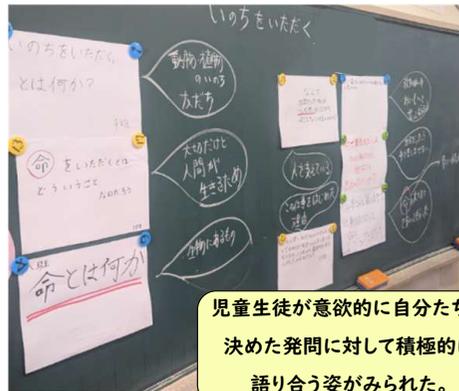
自分が登場人物だったら
このあとどうするか

② 考えを深めたり、広げたりできる発問の工夫

広島大学 宮里教授
「道徳科楽々授業づくりシート」の活用



② 考えを深めたり、広げたりできる発問の工夫



○ 本日の問い（わたし）

○ 本日の問い（他）

○ 話し合いのまとめ

○ 本日の問いに対する考え

② 考えを深めたり、広げたりできる発問の工夫

授業後の振り返り（発問の引き出しづくり）
永田繁雄「道徳教材発問大全集」の活用



次の授業の発問づくりへ生かす
⇒一人一人の児童生徒が考えを伝えあい
納得解を考えられるように



（令和4年度広島県道徳教育研究協議会講師配付資料）

まとめ
成果と課題

子ども同士のかかわり合いを大切にする

	年度初 小学校	年度末 小学校	年度初 中学校	年度末 中学校
道徳科の授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている	82.6	80.3	90.9	94.1
道徳科の授業では、自分の(人間としての)生き方について考えを深めている	86.9	84.7	93.1	94.3
道徳科の授業で勉強したことを自分の生活にいかしている	81.3	80.9	83.3	90.8

(令和7年度 生徒意識調査 肯定的回答の割合)

【目指す子ども像】

自己肯定感を高め、自信をもって学習に取り組んだり、学校や地域での生活を送ったりすることができる

	年度初 小学校	年度末 小学校	年度初 中学校	年度末 中学校
自分にはよいところがあると思う	87.2	84.9	87.1	87.7

(令和7年度 生徒意識調査 肯定的回答の割合)

子ども同士のかかわり合いを
大切にする授業づくりに向けて

・QUアンケート分析、思考の可視化、発問の工夫の充実

⇒1人1人の児童生徒理解の深化、対話的な学び

自己の生き方について考えを深める授業づくり
(自分のよさを実感する)に向けて

・掲示物、通信による発信、道徳プログラム、振り返りの充実

⇒道徳教育と道徳科の繋がり見える化、認め、励ます評価

